

エンディング産業展 (ENDEX) における アンケート調査報告 ②

葬儀と終活について

先の3月号でもご報告しましたとおり、総合研究所では、葬送儀礼に関する研究の一環として、葬送儀礼に関する実態を把握することを目的とし、去る2017(平成29)年の8月と11月に、「エンディング産業展(主催:TSO International、通称:ENDEX)^{*1}」において、主催者との共催により、アンケートと聞き取りによる調査を実施しました^{*2}。同産業展をアンケート対象に選んだのは、より良い葬儀を模索する上で、葬儀の執行に際しての協業者となる、関連業者に対する調査を、目的のひとつとしたことにあります。

3月号のアンケート調査①「仏教・お寺・お坊さんの印象について」の結果報告に続き、今号では、アンケート調査②「葬儀と終活について」の結果をご報告いたします。

アンケート②

葬儀と終活について

葬儀や終活に関するアンケートといえは、多岐にわたるさまざまな内容が想定されますが、本アンケートでは、同産業展内という限られた機会において、出展者と来場者に対して実施するため、次の3点に絞り込みました。

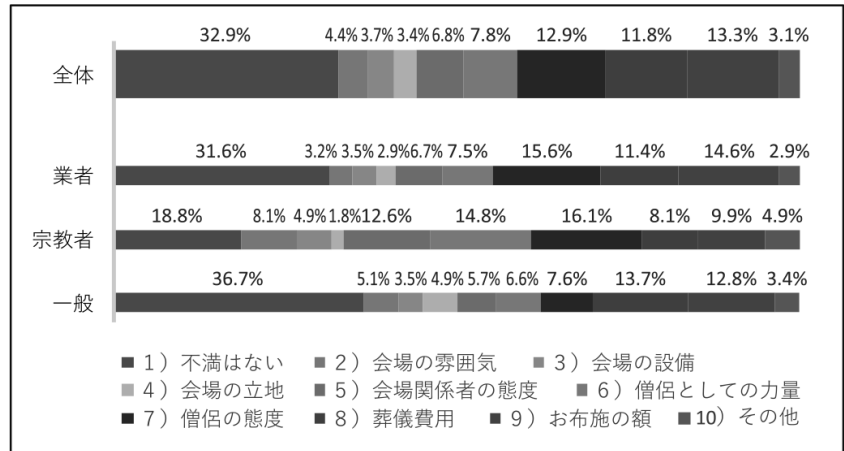
- ・葬儀についての不満
- ・望ましい葬儀会場
- ・終活において僧侶に相談したいこと

■葬儀についての不満

まず、「経験された直近の葬儀で不満を覚えたことを教えてください」という問いに対しては、全体として、「僧侶の態度」と「葬儀費用」、「お布施の額^{ふせ}」において、それぞれ12・9%、11・8%、13・3%と高い数値を示しています(↓

【図表1】
問：経験された直近の葬儀で不満を覚えたことを教えてください
(3つ以内に○印)

回答者数	全体		業者		宗教者		一般	
	2103	構成比	961	構成比	156	構成比	483	構成比
1) 不満はない	843	32.9%	380	31.6%	42	18.8%	217	36.7%
2) 会場の雰囲気	113	4.4%	39	3.2%	18	8.1%	30	5.1%
3) 会場の設備	94	3.7%	42	3.5%	11	4.9%	21	3.5%
4) 会場の立地	87	3.4%	35	2.9%	4	1.8%	29	4.9%
5) 会場関係者の態度	173	6.8%	81	6.7%	28	12.6%	34	5.7%
6) 僧侶としての力量	200	7.8%	90	7.5%	33	14.8%	39	6.6%
7) 僧侶の態度	329	12.9%	187	15.6%	36	16.1%	45	7.6%
8) 葬儀費用	301	11.8%	137	11.4%	18	8.1%	81	13.7%
9) お布施の額	340	13.3%	176	14.6%	22	9.9%	76	12.8%
10) その他	80	3.1%	35	2.9%	11	4.9%	20	3.4%
計	2560	100.0%	1202	100.0%	223	100.0%	592	100.0%



図表1参照)。
4番めにも、「僧侶としての力量」(7・8%)があがっており、「葬儀費用」と「お布施の額」という経済的なもの以外では、「僧侶の態度」をはじめ、

僧侶の側に起因する不満が大きいうかがわれます。この点は、今後の葬儀のあり方を考える上で、僧侶養成の面から、宗門として看過できない結果といえるでしょう。

回答者別でみると、まずエンディング産業関連業者(以下「業者」)においては、全体とほぼ同様の数値となっています。

次に、一般来場者(以下「一般」)においては、「葬儀費用」と「お布施の額」という経済的な項目に関する数値は全体とほぼ同様ですが、「僧侶の態度」に関しては、7・6%と低くなっています。

対して宗教者においては、「葬儀費用」と「お布施の額」がそれぞれ8・1%、9・9%と全体での結果に比べて低率となっています。この結果からは、宗教者の「金銭感覚」が、業者や一般のそれと隔たっているようすががわかるでしょう。この点については、前回報告しました、僧侶の「金銭感覚」が悪い印象を与える要因となっている、との結果に通じるものがあると推察されます。

また、宗教者においては、「僧侶の態度」が16・1%と、業者や一般のそれに比べ、かなり高率になっており、併せて「会場関係者の態度」や「僧侶としての

力量」においても、それぞれ12・6%、14・8%と高率となっています。この結果からは、葬儀を執行する側の宗教者自身が、僧侶や会場関係者の態度、僧侶としての力量に対し、同じ立場ということもあつてか、厳しく見ているようすがうかがわれます。

■望ましい葬儀会場

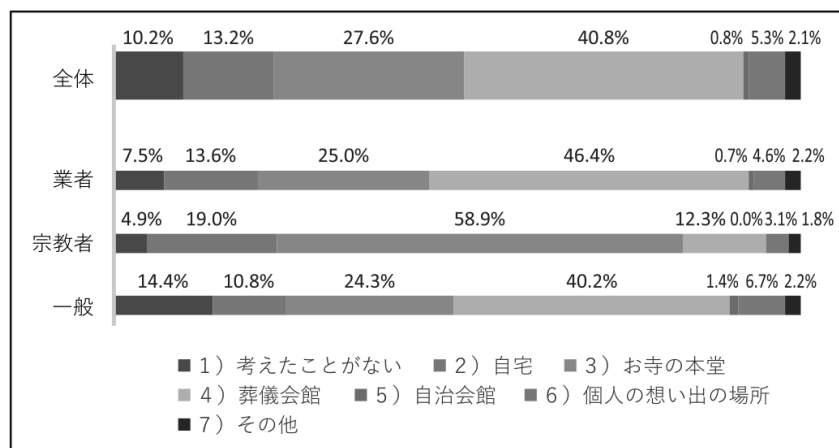
次に「葬儀会場として、もっとも望ましいと思う場所を教えてください」という質問に対しては、全体としては、「葬儀会館」の40・8%を筆頭に、「お寺の本堂」が27・6%、「自宅」が13・2%と、高率になっています(↓図表2参照)。「葬儀会館」がトップとなっているのは、実際に、近年の多くの葬儀が葬儀会館で執行され、そうしたあり方が、社会的な一般認識となつていることが背景にあると考えられます。

ただ、実際に行われた葬儀に関する調査^{※3}によると、現実には、80〜85%にあたる葬儀が、葬儀会館で施行されており、

【図表2】

問：葬儀会場として、もっとも望ましいと思う場所を教えてください(1つのみ○印)

回答者数	全体		業者		宗教者		一般	
	2085	構成比	975	構成比	163	構成比	493	構成比
1) 考えたことがない	212	10.2%	73	7.5%	8	4.9%	71	14.4%
2) 自宅	276	13.2%	133	13.6%	31	19.0%	53	10.8%
3) お寺の本堂	576	27.6%	244	25.0%	96	58.9%	120	24.3%
4) 葬儀会館	850	40.8%	452	46.4%	20	12.3%	198	40.2%
5) 自治会館	17	0.8%	7	0.7%	0	0.0%	7	1.4%
6) 個人の思い出の場所	110	5.3%	45	4.6%	5	3.1%	33	6.7%
7) その他	44	2.1%	21	2.2%	3	1.8%	11	2.2%
計	2085	100.0%	975	100.0%	163	100.0%	493	100.0%



お寺の本堂や自宅での葬儀は、ともに5%前後となつており、理想と現実の間には、大きな隔たりがあります。こうした背景には、アンケートに記された「お寺の本堂での葬儀」をもっとア

ピールしてはどうでしょうか」などの自由記述による回答から、ひとつに「お寺の本堂」という選択肢が、まずもって人々の意識にない、言い換えれば、僧侶がお寺の本堂での葬儀に取り組んでいる

としても、宣伝や告知が足りない状態であることを示しているといえるでしょう。

また、「[寺院の] 設備等が葬儀会館のように専門的でなく不便を感じた」などの回答からは、お寺で葬儀をするにも、設備や手続きなどのシステム、施行にあつた側の寺院側の知識や経験など、環境面での課題がうかがわれます。

さらに、「お寺の本堂」を理想の葬儀会場と考えている割合が30%近くにあるという事実は、宗教離れがいわゆる現代において、お寺の本堂という伝統的な宗教空間において葬儀を施行するということが、宗教性という観点からも、ひとつの可能性を有していると考えられます。そして、お寺の本堂での葬儀については、区分別で見た場合、僧侶の58.9%が理想の葬儀会場と考えていますので、期待したいところです。

■終活において僧侶に相談したいこと

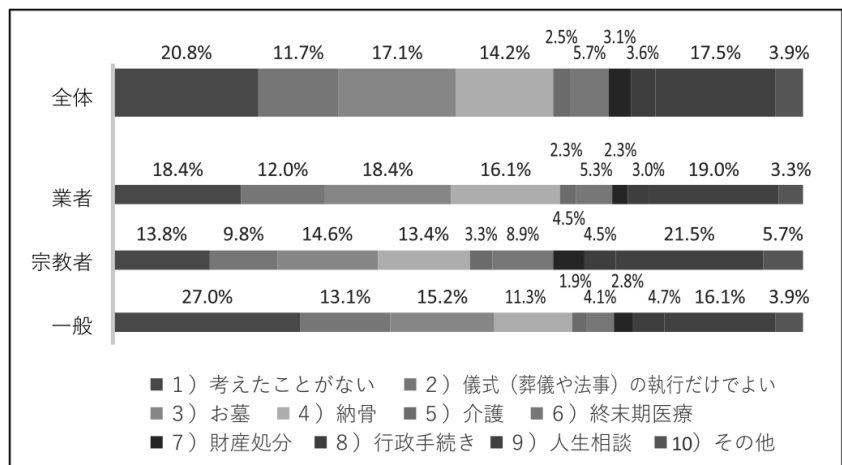
最後の「終活に関して、葬儀・法事以

【図表3】

問：終活に関して、葬儀・法事以外でお坊さんに相談したいことを教えてください（3つ以内に○印）

回答者数	全体		業者		宗教者		一般	
	1999	構成比	941	構成比	150	構成比	471	構成比
1) 考えたことがない	613	20.8%	259	18.4%	34	13.8%	173	27.0%
2) 儀式(葬儀や法事)の執行だけでよい	344	11.7%	169	12.0%	24	9.8%	84	13.1%
3) お墓	504	17.1%	259	18.4%	36	14.6%	97	15.2%
4) 納骨	418	14.2%	226	16.1%	33	13.4%	72	11.3%
5) 介護	75	2.5%	32	2.3%	8	3.3%	12	1.9%
6) 終末期医療	167	5.7%	74	5.3%	22	8.9%	26	4.1%
7) 財産処分	90	3.1%	33	2.3%	11	4.5%	18	2.8%
8) 行政手続き	107	3.6%	42	3.0%	11	4.5%	30	4.7%
9) 人生相談	516	17.5%	268	19.0%	53	21.5%	103	16.1%
10) その他	114	3.9%	46	3.3%	14	5.7%	25	3.9%
計	2948	100.0%	1408	100.0%	246	100.0%	640	100.0%

外でお坊さんに相談したいことを教えてください」という質問に対しては、「考えたことがない」の20.8%を筆頭に、「人生相談」17.5%、「お墓」17.1%、「納骨」14.2%、「儀式(葬儀や



法事)の執行だけでよい」11.7%と続きます(↓図表3参照)。これらの結果は、まずもって、従来の葬送儀礼において僧侶が関与してきた事柄について、今日でも期待されていることを示している

と考えるとよいでしょう。

一方で、「介護」や「終末期医療」、「財産処分」、「行政手続き」など、今日専門分野として確立しているものについては、いずれも約3〜6%と、僧侶に対しては、それほど期待されていないようにすがうかがわれました。

今日、人の死にまつわる課題は、単に葬送儀礼だけに留まりません。終活や死後の諸手続きなど、これまでも増して多岐にわたっています。そのなかで人々は、僧侶に何を求め、そして僧侶は、どのように関わっていくのか、さらには他の専門家とどのように組みすべきか、改めて考え直すべき時期にきているのではないのでしょうか。

* * *

先の3月号と今号の2回にわたって報告してきましたアンケート結果は、およびその方向性という点で、これまでさまざまな機会において指摘されてきた内容を、裏付けるものでした。しかしその数値については、私たち僧侶の認識を上回ったものも、少なくないでしょう。

その意味でこれからの時代、私たち僧侶には、社会の一員として、そうした社会の動向や人々の意識に対し、常に関心を寄せておくことが必要となってくるのではないのでしょうか。

浄土真宗本願寺派総合研究所
仏教音楽・儀礼研究室長 福本康之

*1 「エンディング産業展」とは、「葬儀・埋葬・供養に関する、設備・機器・サービスの集まるエンディング産業に関する専門展示会」で、2015年度より東京にて開催（関西での開催は昨年度が初めて）されており、同種のものとしては日本で最大規模の催しです。

*2 アンケートの実施概要

〈実施機会Ⅰ〉
日時：2017（平成29）年

8月23日〜25日

場所：エンディング産業展2017

（東京ビッグサイト）

〈実施機会Ⅱ〉

日時：同11月8日〜10日
場所：関西エンディング産業展2017
（インテックス大阪）

〈アンケート回収数〉

回収数：2221

〔回答者区分内訳〕

エンディング産業関係者：991

宗教者：165

一般来場者：500

その他：271

不明（未記入）：294

*3 葬儀の施行会場に占める葬儀会館およびお寺の本堂、自宅の割合は次のとおり。

・一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会『全互協 冠婚葬祭1万人アンケート』（2015年）

葬儀会館：85・6%

寺 院：5・1%

自 宅：4・6%

・一般社団法人日本消費者協会『第10回「葬儀についてのアンケート調査」報告書』によるアンケート（2014年）

葬儀会館：81・8%

寺 院：7・6%

自 宅：6・3%

※同協会からは2017年に第11回の報告書がでていますが当該項目はない